

センノカミキリ

タラノキやハリギリの幹にもぐるイモムシ（幼虫）。最大長約50mm。幼虫は枯れた木にみられるが、枯れの直接の原因かどうかは明らかではない。

【学名】 *Acalolepta luxuriosa*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera）， カミキリムシ科（Cerambycidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州。

【生態】

年1回発生。幼虫で越冬。春に蛹になる。成虫は6～8月に出現し、樹皮などを食べる。幼虫は小さなときは材表面あたりを食べ、大きくなると材内に穿孔する。

【被害】

ハリギリ造林地の若い枯れ木での発生が記録されているが、枯れの原因かどうかははっきりしない。

1980年代に道南の栽培しているタラノキでカミキリムシの幼虫による穿孔被害が発生した例がある。種は正確に確認できていないが、センノカミキリの可能性がある。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病害虫獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

1994. 遠田暢男. センノカミキリ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 230-231. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

センノカミキリ kamikiri/sennoki/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/10/24-12/14.